

鑑賞者が新たな「時間」の知覚体験をする

## 小金沢健人による展覧会、「Dual Doodle Double Square」が

KOTARO NUKAGA(天王洲)にて開催。

～ドローイングと、映像プロジェクションによるインスタレーション作品～

KOTARO NUKAGA (天王洲) では、7月7日(金)より8月31日(木)まで、小金沢健人による個展「Dual Doodle Double Square」を開催します。(公式HP: <https://kotaronukaga.com/>) 本展「Dual Doodle Double Square」にて小金沢は、対となったドローイングと、映像のプロジェクションによるインスタレーション作品を提示し、新たな表現領域と知覚体験の提示を試みます。



展示風景 インスタレーション《Dual Doodle Double Square》, 2023, KOTARO NUKAGA (天王洲)

小金沢は武蔵野美術大学卒業後、1999年に渡独、ベルリンを拠点に活動し、Manifesta (2002年、フランクフルト)、横浜トリエンナーレ (2005年、横浜)、アジアンアートビエンナーレ (2009年、台中)、あいちトリエンナーレ (2010年、愛知) などの大型国際展に参加。「KOGANEZAWA」(2009年、Haus Konstruktiv、チューリッヒ)、「動物的」(2009年、MIMOCA、丸亀)、「LUFTLINIEN」(2012年、Haus am Waldsee、ベルリン)、「PAINT IT BLACK」(2016年、Stadtgalerie Saalbrücken、ザールブリュッケン) など国内外の美術館で個展に参加してきました。2017年に帰国し、現在は東京を拠点に活動をしています。小金沢は「映像」における「時間と空間」、さらにその運動性を起点にドローイング、インスタレーション、パフォーマンスへと表現領域を拡張し、世界の新たな捉え方を提示します。



展覧会詳細

小金沢の作品の特徴は「映像」というメディアそのものを作品としてのみならず、画家の筆や彫刻家の鑿、写真家のカメラのように表現に影響を与える道具として用いる点です。本展にも展示される対になったドローイングは、三脚に取り付けられ一定の速度で首を振るように設定されたカメラの前で描かれています。アーティストはカメラに取り付けられたモニタの画面に映った自身の手元、つまり絵画「全体」ではなく「部分」だけを見るようにし、2枚の紙の重なりを自身の視界（カメラモニタ）の中に入るように動かしながら、その重なりの部分にドローイングを描きます。このドローイングの制作時間は一眼レフカメラの連続撮影可能時間内という制限があります。制限の時間が来たら「2枚のドローイング」と「ひとつの動画」の作品は制作を終了し、強制的に完成になります。「2枚のドローイング」と「ひとつの動画」は、ふたつの異なる「時間」に対する感覚を持ちます。

アーティストステートメント：正方形並行生成

2の上で1をつくり、1が分かれて2ができる。

紙に線を引く。紙がずれる、線がずれる、ずれたところを引き受けてまた線を引く。何かの表面に線を引くことは、表面の凸凹に  
つまづきながら進むことだ。

レコードというものは不思議なもので、それを鑑賞するためには、頭から順番に線的な音のつながりを聴いていくしかないが、盤面に刻まれた溝を見ていると、視覚的には全ての音が一度に鳴っている。この作品においても、ドローイングが描かれた全ての瞬間は映像で記録されているが、最終的には2枚に分かれた紙ができあがることになる。1回のドローイングから、ひとつの映像とふたつの紙が生成される。双子を生んだのか、ひとりが分裂したのか。逆方向からのキュビズムに似て、ドローイングという行為はふたつの違った形式の時間に保存された。

この作品では、回転するビデオカメラのモニターに映し出された、紙が重なっている箇所に描くというルールがある。撮影されるエリアは動き続け、紙は意図的に、偶然に、ずれていく。ドローイングするフィールドには断層があり、描いていたものが突然ふたつに分裂してしまう。かつてひとつの運動の一部だったドローイングは、その半分を分け合って別々の紙のフィールド上に痕跡を残す。フィールドは重なったり離れたりを繰り返して、過去に描いたドローイングと現在が予想外の出会いをすることになる。

2枚の絵を同時並行に描くことは、即興の手法の開発であり（紙は回転させるし天地が関係なくなるので正方形に。画材は定着を遅らせて後で修正できるようにパステル）、時間に追われる作業であり（29分59秒で自動的に録画が切れるカメラを使用）、部分から全体を想像するゲームでもある（描いているときは常に下のレイヤーは見られない）。描き上がった2枚のドローイングを見ると、物理の法則に反して、ふたつの場所に同時に存在していた証拠に見えてくる。

小金沢健人 | Koganezawa Takehito

photo by Kenji Nakamura

1974年東京生まれ。武蔵野美術大学造形学部映像学科卒業。在学中よりビデオによる映像作品の発表を始める。1999年から2017年まではベルリンを拠点にして活動。「運動」と「場所」に強い興味を持ち、映像作品のインスタレーションを起点に、パフォーマンス、ドローイング、立体作品、サウンドなどが、動きの中で交わる表現へと幅を拡げてきた。近年は舞台や劇場空間での表現も手がけ、生成と消滅を探究する方向へ進んでいる。これまでに、メディアシティソウル、マニフェスタ、シャルジャビエンナーレなどの重要な国際展に名を連ね、国内でも横浜トリエンナーレ、あいちトリエンナーレ、六本木クロッシングなどに参加。

**【開催概要】**

「Dual Doodle Double Square」

会期: 2023年7月7日(金) - 8月31日(木)

開廊時間: 11:00 - 18:00 (火-土) ※日月祝休廊

会場: KOTARO NUKAGA (天王洲)

住所: 〒140-0002 東京都品川区東品川1-33-10 TERRADA Art Complex 3F

**【お問合せ】**

KOTARO NUKAGA

EMAIL: kato@kotaronukaga.com

URL: www.kotaronukaga.com

TENNOZ: TEL +81(0)3 6433 1247 / FAX +81(0)3 6433 1257

担当: 加藤(070-3350-5109)